

フューチャー イノベーション フォーラム

2011年度 活動報告





表紙について

フューチャー イノベーション フォーラムは活動5周年を記念して「七色のにじ」をテーマに絵画コンクールを開催しました。表紙を飾っているのは、最高賞の金賞を受賞した作品「メゾ・スタッカート」です。

Contents

| | |
|--|-----------|
| FIF特別鼎談 | 02 |
| FIFについて | 04 |
| 2011年度の活動報告 | |
| ■ アドバイザリーボードミーティング | 08 |
| ■ 運営委員会 | 08 |
| ■ 会員様向け企画 | |
| ☞ アドバイザリーボードインタビュー「Future Wind」 | 09 |
| ☞ イノベーションワークショップ 2011 | 10 |
| ☞ イノベーションワークショップ 2011 総括セミナー | 14 |
| ■ キッズ&ユース企画 | |
| ☞ 社会の最前線 | 15 |
| エネルギーの最前線 | 16 |
| はたらくクルマの最前線 | 17 |
| ☞ ITらぼ | 20 |
| 子ども向け学習コンテンツ「webで学ぼう!」 | 21 |
| ☞ FIF Kids絵画コンクール | 22 |
| ■ 復興支援活動「スマイルプロジェクト」 | |
| ☞ 石巻アートワークショップ | 25 |
| ☞ アート de スマイル にじいろぱれっと | 26 |
| プレスクリッピング | 27 |
| イベントポスター集 | 28 |



フューチャー イノベーション フォーラム

特別鼎談

フューチャー イノベーション フォーラム代表による新春恒例の特別鼎談。

今回は衆議院議員の前原誠司氏を迎えて、2011年を振り返りながら、2012年の展望と課題を語っていただきました。

ウシオ電機株式会社 会長
F I F 代表

フューチャーアーキテクト株式会社
会長兼社長、F I F 代表

衆議院議員
民主党 政策調査会長

牛尾 治朗 × 金丸 恭文 × 前原 誠司

●●● リスクを取る勇気 ●●●

金丸 2011年は東日本大震災をはじめ欧州の債務危機や米国の景気減速など、世界的に見ても激動の年でした。

牛尾 なかでも日本経済にとって円高は深刻な問題です。歴史的な円高によって、自動車産業までもが海外への生産移管を推し進めています。

前原 重要な素材産業でも国外へ出ていく動きが広がっています。たとえば「ボーイング787」の機体にも使われている炭素繊維は日本のトップメーカーが製造しており、高い技術力を誇る素材ですが、いまその生産拠点となる工場が韓国に建設されています。このようなクラウン・ジュエル（企業が保有する最も魅力的な事業部門・資産）が出ていくことに強い危機感を抱いています。

金丸 企業を取り巻く環境は悪くなる一方ですが、我々経営者は業績不振を環境のせいにはできません。変化をとらえて迅速に対応し、リスクを的確にマネジメントすることが経営者に課せられた使命だと思います。

牛尾 そうですね。経営の本質はまさにリスク・マネジ

メントです。しかし、最近の経営者は90%の成功が保障されないと手を出さない人が多いように思います。成功率90%では、たとえ成功したとしてももう時代遅れです。一步先を行こうとすれば、60、70%の成功率でもチャレンジしなければなりません。日本に活力を取り戻すためにも勇気をもってリスクを取ってほしいですね。

前原 政治も同じです。内政においても外交においても、リスクを取ってどのように舵取りするかが政権に求められています。我々がしっかりしなければいけません。

●●● 行政改革の断行を ●●●

金丸 税と社会保障の一体改革、震災復興、エネルギー問題など日本は様々な問題を抱えています。2012年、政治は何に取り組むべきだと考えていますか？

前原 ふたつあります。ひとつはデフレ脱却と成長戦略の実行。もうひとつは徹底した行政改革です。もちろん震災復興、原発対応、外的要因のリスク・マネジメントなども重要ですが、このふたつをいかにやるかが今年政治に課せられたテーマではないかと思っています。

●●● 未来を共有する ●●●

牛尾 とくに行政改革は進めなければなりません。中央官庁にはいまだに50年前に出来たままの組織があり、変化に全く対応できていない。国の根幹に関わる外交、防衛、治安、徴税は中央政府がやるべきですが、そのほかは民間に委ねてもいいのではないのでしょうか。国はできるだけ事業に関わらないほうがいい。

金丸 実際にJR、JT、NTTも民営化以降、サービスが向上し、財務状況も大幅に改善しました。

牛尾 官民の役割をプロスポーツにたとえると、行政は審判、民間企業はプレーヤー、そして国民は観客だと言えます。行政はルールを決め、民間企業はルールに従ってプレーする。プレーヤーは勝利を求めて最後の瞬間まで必死に戦い、その緊張感が強いチームをつくります。また、選手が反則をしたり審判が誤った判定をしたりすれば、観客からブーイングが起きて是正されていく。この観客に観られている状況が、民主主義なのです。

金丸 そして選手をまとめて戦術を立てる監督は経営者であり、審判団をリードするのが政治家ではないでしょうか。

前原 行革を断行するには各省のトップである大臣、つまり政治家に問題意識とやり抜く覚悟が必要です。政治が意志を持たなければならぬと強く思います。

金丸 厳しい競争を生き抜くために、企業は常に最適な経済合理性を求めて経営判断をし、時にはドラスティックなリストラも行っています。目の前に問題があるのに何もしない政府を見ていると、非常に歯がゆく思います。

牛尾 国が一生懸命な姿を見せないと国民は納得しません。政治家が主導し、行革に本気で取り組んでほしい。

金丸 アジアの時代を迎えて、日中、日韓の関係はどうあるべきでしょうか？

牛尾 日本がアジア経済圏の中核を担っていかなければならないのは確かですが、民主主義と市場経済を守ることを考えると、韓国との関係をもっと強化すべきだと思います。

前原 日本の外交にとって韓国は米国と同様、非常に重要です。影響力を増す中国とどう向き合っていくのか。それは封じ込めでも敵対でもなく、日韓が手を携えてどのように対応するのかを話し合うべきです。もっと戦略的に韓国との関係を考えなければなりません。

金丸 以前に比べると、文化や観光での交流は進みましたが、経済面ではまだまだですね。

前原 そうですね。たとえば韓国には日本商工会議所がありません。それが日韓のFTA（自由貿易協定）、EPA（経済連携協定）の推進力の弱さにつながっているのではないのでしょうか。

牛尾 ただ最近では、韓国の財閥出身の優秀な人が日本企業へ転職するケースが増えており、様々な業界で活躍していると聞きます。こういう民間レベルでの交流が増えて日韓関係にプラスに働くことを期待しています。500年間戦争を繰り返していた欧州は今から55年前、民主主義と市場経済を守るために経済共同体（EEC）を設立しました。「今日の対立は認め合おう。そして5年後、10年後の計画を共にしよう」と互いに手を取り合ったのです。我々もこの“未来を共有する”というコラボレーションの精神を学び、互いにWIN-WINの関係を築いていくべきだと思います。

（文中敬称略）

文責：Future Innovation Forum



前原 誠司（まえはらせいじ）

京都大学法学部卒。1987年松下政経塾入塾。93年衆議院議員に初当選、国土交通大臣、外務大臣等を歴任。座右の銘は「至誠 天命に生きる」。



牛尾 治朗（うしお じろう）

東京大学法学部卒。1964年ウシオ電機設立。経済同友会代表幹事、経済財政諮問会議議員などを歴任。日本生産性本部会長。



金丸 恭文（かねまる やすふみ）

神戸大学工学部卒。1989年フューチャーシステムコンサルティング設立（現フューチャーアーキテクト）。経済同友会幹事。

FIFについて

フューチャー イノベーション フォーラム（略称：FIF）は社会貢献活動を目的とした団体です。2006年1月の設立以来、会員様向けのセミナーや次世代を担う若手リーダーを対象にしたワークショップのほか、子どもたちの「学ぶ」「楽しむ」「ワクワク感」を大切にしたプログラムを、様々な企業と協力しながら企画・運営しています。また今年度は、東日本大震災の被災地の人たちに少しでも笑顔になってもらおうと、アートによる復興支援活動を精力的に行いました。

◆ キーコンセプト

ITイノベーションを人と社会と企業の力に

◆ 業種を越えたベストプラクティス・ITの改革力の研究と共有

- ITのさらなる進化の方向の探求
- 次世代経営システムの研究
- 産学連携の促進

◆ 個人力のUP、自律的コミュニティへの支援

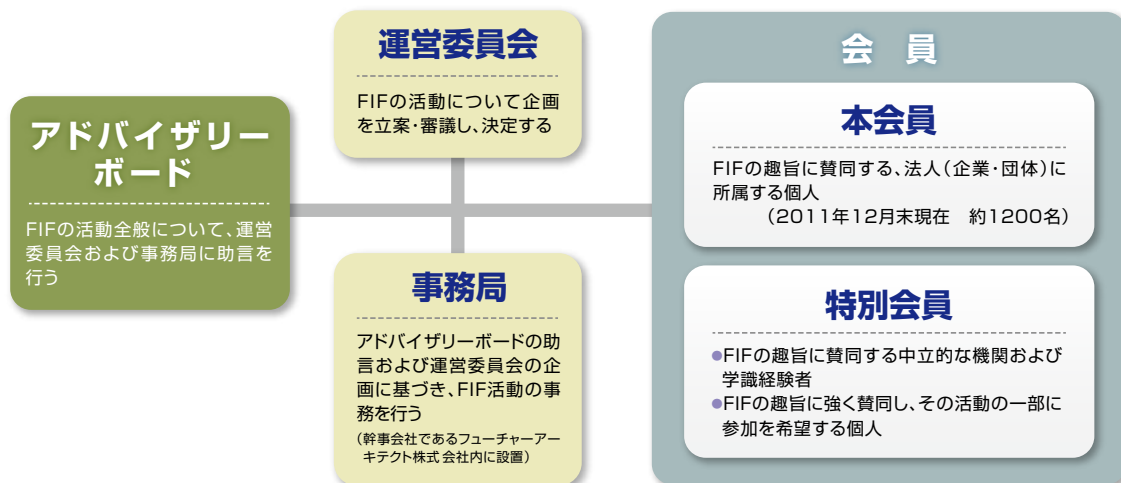
- 子どもたちの潜在力の発掘・開花
- 高齢者や中高生・大学生のITリテラシー教育（他団体、学校との連携）
- 地域、コミュニティ、家庭でのIT活用研究

◆ 効率的で質の高い教育サービスの研究

- 大学をはじめとする教育機関へのIT教育支援、相互交流

◆ 組織図

FIFの組織は「会員」「アドバイザリーボード」「運営委員会」「事務局」で構成されます。現在約1200名の会員の皆様に活動へご参加・ご支援いただいています。



◆ 活動内容

F I Fの活動は「会員様向け企画」と「キッズ&ユース企画」があり、2011年度は東日本大震災の復興に向けた支援活動を始めました。会員様向け企画は「ITによるイノベーションを探る」を基本テーマにワークショップやセミナーを開催、キッズ&ユース企画は「未来を担う子どもたちの夢・可能性を広げよう」というテーマのもと、ものづくりやグループワークを重視した体験型プログラムを行っています。また復興支援活動は「子どもたちの笑顔で東北を元気に!」というスローガンのもと、今後も長期にわたって続けていく予定です。

| | | |
|---|--|--|
| <p>会員様向け企画</p> <p>ITによるイノベーションの可能性を探る</p> <p>Future Wind アドバイザーボードの皆様の意見を会員に発信し、コミュニケーション促進を図る</p> <p>ワークショップ、セミナー ITと経営にかかわるシリーズテーマのもと、情報共有や意見交換を行い、理解を深める</p> <p>総会 FIFの年間活動やイノベーションに関する情報を発信し、会員同士の交流・懇親を図る</p> | <p>キッズ&ユース企画</p> <p>未来を担う子どもたちの夢・可能性を広げよう</p> <p>社会の最前線 働くカッコいい大人とのふれあいをとおして働くことの楽しさややりがいを体感し、未来を支えるカッコイイ大人になろう!</p> <p>ITらぼ ITのおもしろさや可能性を体感し、イノベーションを生み出す大人になろう!</p> <p>絵画コンクール ◆新企画 「七色のにじ」をテーマに自由な発想で描こう!</p> | <p>復興支援活動</p> <p>子どもたちの笑顔で東北を元気に! ◆新企画</p> <p>スマイルプロジェクト 絵を描いたり仲間とふれあうことで楽しい時間を過ごしてもらい、子どもたちの笑顔で周りの大人も元気になってもらいたい</p> <p>●石巻アートワークショップ 石巻市の避難所で暮らす子どもたちの心のケアを目的とした、絵を自由に描くワークショップ</p> <p>●アートdeスマイル にじいろぱれっと 石巻アートワークショップの作品展示をはじめ、「アートを楽しむ」をテーマにした企画展</p> |
|---|--|--|

◆ アドバイザリーボードメンバー

明石 勝也 聖マリアンナ医科大学 理事長
伊藤 元重 東京大学大学院 経済学研究科 教授
牛尾 治朗 ウシオ電機株式会社 代表取締役会長
金丸 恭文 フューチャーアーキテクト株式会社 代表取締役会長 兼 社長
川本 裕子 早稲田大学大学院 ファイナンス研究科 教授
栗和田 榮一 佐川急便株式会社 会長
小島 順彦 三菱商事株式会社 取締役会長
榊原 清則 法政大学 経営大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授
白井 克彦 放送大学学園 理事長 (前早稲田大学総長)
鈴木 茂晴 株式会社大和証券グループ本社 取締役会長
張 富士夫 トヨタ自動車株式会社 代表取締役会長
中西 勝則 株式会社静岡銀行 代表取締役頭取

新浪 剛史 株式会社ローソン 代表取締役社長 CEO
藤沢 久美 シンクタンク・ソフィアバンク 副代表
増田 宗昭 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 代表取締役社長 兼 CEO
三木谷 浩史 楽天株式会社 代表取締役会長 兼 社長
渡 文明 JXホールディングス株式会社 相談役
(2011年12月末現在 氏名50音順敬称略)



アドバイザリーボードミーティングにて (2011年5月)

◆ 運営委員

井岡 康治 佐川急便株式会社 執行役員 営業戦略部 部長
小田 聰樹 ウシオ電機株式会社 社長室 秘書課 マネージャー
貝沼 直之 株式会社ローソン 経営戦略ステーション ディレクター補佐 I R部長 兼 戦略企画担当
澤 昭裕 NPO法人国際環境経済研究所 所長
西村 伸吾 JX日鉱日石エネルギー株式会社 広報部 副部長
前川 徹 サイバー大学 IT総合学部 教授

安間 裕 フューチャーアーキテクト株式会社 取締役副社長、F I F運営委員会委員長
東 裕二 フューチャーアーキテクト株式会社 取締役副社長、F I F運営委員会副委員長
岡安夏世子 フューチャーアーキテクト株式会社 CSR推進室チーフ、F I F事務局長

(2011年12月末現在敬称略)

2011年度の活動方針

FIFから毎日が未来へとつながる

- ◆ 子どもの熱中・夢中を呼び起こし、日本を明るくする
- ◆ 次世代のリーダーが集い、未来へ向かい創造する
- ◆ 参加するすべての人が、世界とのつながりを意識できる活動をする

2011年度の活動実績

2011年度は「F I Fから毎日が未来へとつながる」というスローガンのもと、世界とのつながりを意識した活動に取り組みました。ワークショップ新シリーズでは各企業の次世代リーダーに集まっていたいただき、「東アジアのビジネスチャンス」について議論を深めたほか、設立5周年を記念して「七色のにじ」をテーマに絵画コンクールを開催し、モルディブ共和国など海外からも多数の応募がありました。また東日本大震災の発生直後から自分たちに何ができるのかを議論し、今年度は“子どもたちに笑顔を取り戻してもらおう”と石巻市の避難所でアートワークショップを計10回行うとともに、仙台市にて参加型のアート企画展を開催しました。

| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-----------|----------------|----|----|--------------------------------------|-------------------|--|-----------------------------|----------------------------|---------------------------------------|----------------------------|-----------|------------------------------|------------|
| 全体 | 1/21 特別鼎談 | | | ★ 10年度 活動報告書 発行 | | ★ 5/11 第6回 アドバイザリーボード ミーティング | | | | ★ 9/28 第11回 運営委員会 | | | |
| | Future Wind | | | | ★ 第7号 発行 | | ★ 第8号 発行 | | | | | | |
| | ワーク ショップ | | | | 新シリーズ | ★ 5/20 第1回 | ★ 6/10 第2回 | ★ 7/15 第3回 | | ★ 9/9 第4回 | | | |
| セミナー | | | | | | | | | | | | ★ 12/2 新シリーズ 統括セミナー | |
| キッズ&ユース企画 | 社会の 最前線 | | | ★ 3/30 物流の最前線 【東日本大震災のため中止】 | | | | ★ 7/28 エネルギーの 最前線 | ★ 8/8 はたらくクルマの 最前線 | | | | |
| | ITらぼ | | | ★ 学習コンテンツ 第1弾公開 | | | | | | | | | ★ 第2弾公開 |
| | 絵画 コンクール | | | | ★ 4/12 募集開始 | | | | | ★ 8/31 募集締切 | ★ 各賞発表 | | |
| 復興支援 | ワーク ショップ | | | | | | ★ 石巻アートワーク ショップ(全10回) | ★ | | | | | |
| | 企画展 | | | | | | | | ★ 8/21~23 アートdeスマイル にじいるパレット | | | | |

アドバイザーボード
ミーティング&
運営委員会

会員様向け企画

キッズ&ユース企画

復興支援活動

プレスクリッピング

イベントポスター集

アドバイザーボード ミーティング& 運営委員会

FIFはアドバイザーボードならびに運営委員の皆様にご提案や助言をいただきながら活動を行っています。アドバイザーボードミーティングは年1回開催され、FIFの活動全般に対して提案やアドバイスをしています。また運営委員会は定期的に開催され、FIF活動について企画を立案・審議し、決定しています。

◆ アドバイザーボードミーティング

- ◆ **日 時** 2011年5月11日(水) 11:00～13:30
- ◆ **会 場** マンダリン・オリエンタル東京(東京都中央区)
- ◆ **出席者** 15名
- ◆ **内 容**
 1. 開会 FIF代表・当ミーティング議長
金丸 恭文(フューチャーアーキテクト株式会社 会長兼社長)
 2. 2010年度の活動の振り返り
 3. 2011年度の活動について
 4. 意見交換



金丸 恭文

◆ メンバーの感想・助言・要望

- 活動を5年継続してきたのは素晴らしい。子どもたちには働く現場を見て、日本にも尊敬すべき会社が数多くあることを感じてほしい。
- ワークショップは次世代リーダー育成に向けた良いプログラムだと思う。いまは知識を得る“インプット型”のワークショップを行っているが、今後は自分たちの知識や経験を伝える“アウトプット型”を展開するのいいのではないか。
- FIFは複数の企業が協力して活動する新しい形の社会貢献活動。この特色を生かし、今後も「IT」と「企業」をベースに、ほかでは見られないオリジナルプログラムが生まれてくることを期待する。
- 震災をきっかけに人と人との絆が見直されている。FIFでも参加者同士の長期的な絆を絶やさなく、みをつくってほしい。



◆ 運営委員会

- ◆ **日 時** 2011年9月28日(水)
- ◆ **会 場** 東京都内
- ◆ **内 容**
 1. 新委員、新運営委員長の紹介
 2. 2011年度の活動内容検討
 3. 各プログラムの実施報告
 4. 意見交換



◆ メンバーの感想・助言・要望

- ワークショップは参加者の満足度が高い。エネルギー政策など関心の高い分野をテーマに取り上げ、今後も積極的に情報発信してほしい。
- 複数の企業を巻き込んで震災復興支援活動が実施できたのは素晴らしい。復興支援活動は継続してやっていくべきだし、我々もできるかぎり協力したい。
- 有意義な活動なので、首都圏に限らず地方でもどんどん開催してほしい。

会員様向け企画 アドバイザーボード インタビュー 「Future Wind」

「Future Wind」はアドバイザーボードの皆様へのインタビューを掲載した冊子で、2009年の創刊以来、ボードメンバーの皆様のこれまでの経験から導き出された貴重なお話が伺えるとして、会員の皆様にたいへん好評です。2011年度に発行した各号のメッセージをご紹介します。

※役職は発行当時

テーマ「今の時代だからこそ求められるリーダー像」

第7号 早稲田大学大学院 ファイナンス研究科 教授 川本 裕子 様

- 働くことは客観性を芽生えさせ、経済的自立は精神的自立をも促す。
- 海外での異文化体験により自国の文化を比較することで、思考は深まる。
- プロジェクトの成功には、個々の力に加えてチーム総体としての力も必要だ。
- チームにおけるリーダーの重要な役割は、メンバー全員が同じ目標を共有し、同じベクトルに向かいながら快適に仕事ができる環境をつくりあげること。
- 小さな分野でも物事の考え方や方向性を導けるリーダーが、自身の理想。
- 地位は人をつくる。上の世代は若者にチャンスを与える勇気が必要である。
- 若者には経済的自立と外を見る力を養うことで、より良い日本を築いてほしい。



2011年4月発行

第8号 トヨタ自動車株式会社 会長 張 富士夫 様

- リーダーは責任を感じて努力することが必要だ。
- 現場を見ることは重要。実行することの大切さ、働く人を大切に思う心、「なぜ? なぜ?」と追求する気持ちが養われる。
- 旗を振るだけのリーダーには誰もついてこない。同じ目標に向かってみんなを突き動かすには、相手を納得させる折衝力や説得力が必要である。
- 企業の海外進出では、相手のやり方を学ぶという謙虚な姿勢も大切だ。
- 自分が置かれている経営環境を把握し、日々勉強を惜しんではならない。
- 世界の現状と取り巻く環境を見据え、戦略を立てていくことが不可欠。



2011年6月発行

バックナンバーは次のとおり。 ※社名・団体名、役職は発行当時

- | | | | | | |
|-------|----------------------------|---------|-------|-------------|---------|
| ◆ 創刊号 | フューチャーアーキテクト株式会社 CEO/FIF代表 | 金丸 恭文 | ◆ 第4号 | 三菱商事株式会社 社長 | 小島 順彦 様 |
| ◆ 第2号 | 新日本石油株式会社 会長 | 渡 文明 様 | ◆ 第5号 | 早稲田大学 総長 | 白井 克彦 様 |
| ◆ 第3号 | 株式会社大和証券グループ本社 社長CEO | 鈴木 茂晴 様 | ◆ 第6号 | 株式会社静岡銀行 頭取 | 中西 勝則 様 |

会員様向け企画 イノベーション ワークショップ 2011

「ITによるイノベーション」を基本テーマに、初年度からワークショップを開催しています。新シリーズでは中国、インド、シンガポールに着目し、各国の政治・経済情勢を踏まえながら日本企業進出の鍵を検証してきました。また今年度も次世代リーダーの集う場として、30～40代の中堅・若手社員に参加いただき、グループディスカッションをとおして交流を図りました。全4回開催。

シリーズテーマ「東アジアのビジネスチャンス」

◆ コーディネーター

キャノングローバル戦略研究所 研究主幹 瀬口 清之 様

◆ 会 場

フューチャーアーキテクト株式会社内会議室 (東京都品川区)

◆ 参加企業 (計32社、社名50音順)

| | |
|-----------------------|------------------|
| アサヒビール株式会社 | 株式会社大和総研 |
| ウシオ電機株式会社 | 武田薬品工業株式会社 |
| オムロン株式会社 | 株式会社千葉銀行 |
| カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 | 株式会社ティーガイア |
| キッコーマン株式会社 | トヨタ自動車株式会社 |
| コマツ (株式会社小松製作所) | 日本たばこ産業株式会社 |
| 佐川急便株式会社 | 株式会社ファーストリテイリング |
| サッポロビール株式会社 | フューチャーアーキテクト株式会社 |
| 株式会社山陰合同銀行 | 株式会社ベネッセコーポレーション |
| JX日鉱日石エネルギー株式会社 | 三菱商事株式会社 |
| 敷島製パン株式会社 | 三菱食品株式会社 |
| 株式会社静岡銀行 | 株式会社ヤクルト本社 |
| 株式会社住生活グループ | 楽天株式会社 |
| 株式会社常陽銀行 | 株式会社リクルートエージェント |
| 全日本空輸株式会社 | 株式会社ローソン |
| ソフトバンクテレコム株式会社 | 株式会社ワールド |



瀬口 清之 様

◆ 開催実績 (日時、テーマ、講師)

- 第1回 2011年5月20日 (金) 18:00～21:00
「中国における経済環境変化の“今”」
キャノングローバル戦略研究所 研究主幹 瀬口 清之 様
- 第2回 2011年6月10日 (金) 18:00～21:00
「中国の変化がビジネス環境に与える影響」
キャノングローバル戦略研究所 研究主幹 瀬口 清之 様
- 第3回 2010年7月15日 (金) 18:00～21:00
「インドビジネスなくして将来はあるか? ～方法としてのインド」
経済産業省 通商政策局 アジア大洋州課 課長補佐 松島 大輔 様
- 第4回 2011年9月9日 (金) 18:00～21:00
「シンガポール～高成長の背景にある経済政策と資本フロー」
クレディ・アグリコル証券会社 東京支店 チーフエコノミスト 関戸 孝洋 様



松島 大輔 様



関戸 孝洋 様

第 1、2 回

「中国における経済環境変化の“今”」「中国の変化がビジネス環境に与える影響」

【講師】 キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹 瀬口 清之 様



◆ 第 1 回 グループディスカッション

日中関係を今後どのようにしていくのか、中国で日本企業はどう振る舞うべきか？

- 日本ではよく 5 年単位で戦略を立てるが、中国では半年といった短いスパンで立てる必要がある。3 ヶ月後に実施することを 1 週間で決定し、1 年間の設備投資計画を 1 カ月で決めるといのように、どんどんスピードアップしていかなければ中国市場にはついていけない。その延長線上に中長期戦略を考えるべきだ。
- 中国市場の急速な変化に対応するには、現地の変化を的確に伝えてくれる中国人の意見を尊重し、ふさわしいポジションを与え、信頼関係とコミュニケーションの構築に努めることが非常に重要だ。
- 昔から日本企業は中国市場で売り上げ、その収益を日本に還元することで発展してきた。広がりがない日本市場に留まっていれば企業の生き残りは難しい。中国やインドという市場にチャレンジすべきである。
- ボトムアップは意思決定の早い経営者がいれば迅速な対応が可能になる。社長から委ねられたときに的確に応えられる有能なリーダーを育て、日本型の良いボトムアップ経営ができれば、中国でも活きる。
- 農業分野は今後中国とコラボレーションしていける分野であり、日本で規制されている企業による農業を中国でやるというのも、ひとつの方向性といえる。



◆ 第 2 回 グループディスカッション

中国の変化が社内体制にどのような影響を与えるのか？

- 中国においては、日本側とも中国政府側ともうまくやっていける優秀な中国人パートナーを見つけることが非常に重要。また、日本企業は中国を公平に見る能力を備えた上で、中国の代表者を信頼し、Yes/No のジャッジを素早くしていかなければならない。
- 中国の人材をどう育成し、現地のリーダーに育てるのは、日本企業にとって共通の課題である。その成功事例を別の会社のビジネスに展開していけば、新しいビジネスチャンスが広がる。
- 本社側が現地のことを手に取るように把握できる状態にならないと、必要な権限委譲はできず、意思決定のスピードアップも図れない。本社と現地トップ同士がいかに良い関係を構築していけるかがポイントだ。
- 中国で現地の人を雇用する場合、給与に個人の業績を大きく加味するなど職場での競争意識を維持する必要がある。一方で日本人の経営者が立派であれば、多少給与が安くても一緒に働きたいと考える中国人もいる。こういった想いに国籍は関係なく、これまで立派な日本人のリーダーについていきたいと思った人がいたからこそ日本企業は世界で発展してきた。



◆ 参加者の声 (アンケートより)

- 最新の中国事情がよく理解できました。本当に刻々と変化しているのだと思います。
- 企業自身が動いて政府を動かし、市場を開拓し、顧客を創造することに尽きると思いました。
- 日本人と中国人の国民性の違いによる技術力の優劣と将来性は、非常に印象に残りました。
- 今後の展開に向けたフレームワークが見えた気がしました。
- 講師の“事象”に基づいた「考え方」についての講義は実務に役立てられると感じています。
- いろいろな企業のみなさんとのネットワーク構築に有用なワークショップでした。

「インドビジネスなくして将来はあるか？～方法としてのインド」

【講師】 経済産業省 通商政策局 アジア大洋州課 課長補佐 **松島 大輔 様**



◆ 講演概要

インドでは日本側が何を売りたいかではなく、インド側がいま何を求めているのかを把握し、ビジネスを展開していくことが重要である。インド市場への早期進出と現地化に必要なポイントは以下の3つ。

1. 組織の現地化

日本の市場を念頭においた組織形態では、インド市場は取り込めない。外国との「三角連携」や、日本市場ではできないことに取り組んでみるのも良い方法であり、本来は交わることのない企業同士で新しいサービス、産業を生み出すチャンスがある。

2. 市場の現地化

インド向けにつくった製品が、「リバーズ・イノベーション」で翻って先進国でも売れるというケースが出始めている。今後は現地製品のなかに日本の部品やパーツ、技術を組み込んで市場展開していくことも必要だ。



3. 生産の現地化

外国とのアライアンスが成立しているため、インドの優良企業とのビジネス・アライアンスが難しくなっている。日本企業は合意形成に時間がかかるのがネック。このままでは現地でのビジネス・パートナーがいなくなるという危惧がある。

インド市場にはビジネスチャンスがたくさん埋まっている。規制や既得権益の枠内にある日本のマーケットでは実現できなかったアイデア・発想を試すことで、新しいビジネス、新しい産業が生まれ、これがまさに日本の今後の競争力の源泉となるだろう。

◆ 質疑応答

Q. インドでは輸出競争力を元とした財政収支の改善は可能なのか？

A. 今後のインドの輸出競争力は自動車を中心としたものづくりが中核となっていくが、インドネシアとの結びつきも強く、中東・北アフリカ・バングラデシュ・パキスタンなどネクストイレブン、南アフリカなどの新興国、新興国市場も狙っていける地の利がある。



Q. インドにおける財閥の実態は？

A. まさにインド経済を形作ったのが財閥で政治への影響力も強い。財閥はパートナーとなるとこれほど強いものはないが、多角化経営を進めているため、全業種に財閥系コンペティターがいると考えるべき。

Q. 日系企業進出におけるインド政府の法的整備の取り組みは？

A. インド政府には民主的なステップがあり、法律ができるのが遅い。政策が行われる背後にある意図を読み解くことが大切であり、それによりビジネスチャンスや政策変更の可能性を見出すこともできる。

◆ 参加者の声 (アンケートより)

- インドへの投資メリットがとてわかりやすく理解できました。
- 官民連携で、産業を改新したいと思います。
- 非常に興味深い話が聞けたと思います。企業ではできないアプローチのヒントになりました。
- 日系企業 vs. 欧米企業の成功例、失敗例についても聞きたかったです。
- 中小企業の海外進出支援についてどうしていけばよいか、いつも手探りでやっています。
- 各国の情報にふれられて勉強になりましたので、今後もこういったワークショップを続けてほしいです。

第4回

「シンガポール～高成長の背景にある経済政策と資本フロー」

【講師】クレディ・アグリコル証券会社 東京支店 チーフエコノミスト 関戸 孝洋 様



◆ 講演概要

シンガポールは経済政策により成長した国である。経常収支も対 GDP（国内総生産）比の黒字が ASEAN の中で突出している。しかし、経済成長が必ずしも政権安定につながらない点は、他の東南アジア諸国と同様で、輸出依存度が高いことから世界経済の影響を大きく受けやすいのも特徴だ。

金融危機などの対外的危機へ迅速に対応するため、シンガポールは戦略的な経済政策を実施してきた。60～70年代にかけて、リー・クアンユー（初代首相）を中心に輸出強化による外貨獲得を進めた一方、国内の企業を統括管理する持ち株会社を設立し、その配下で国営企業を育成していった。80年代後半には、シンガポールを物流や調達のハブとして活用する企業に対してタックス・エグゼンプション（税金の免除）を行うようになり、90年代後半は多角化した対外経済関係づくりに注力。アジア通貨危機をきっかけに、2001年には育成した地場産業を国外で成長させるべく、中国・インド市場へのプラットフォーム活用政策を明確に打ち出した。

現在も様々なタックス・エグゼンプションを提供することで外資系企業の進出を促しているが、いま日本企業に求められるのは、そのメリットを享受するための交渉力である。シンガポール政府は民間や外資系企業を巻き込んで幅広く意見を取り入れる「経済戦略委員会」を09年に設立するなど、今後の経済政策を戦略的に練っている。政府が戦略的な分、企業側もそれ以上に戦略的でなければならない。



◆ 質疑応答

Q. シンガポール進出のメリットは？

A. タイとマレーシアが同じような施策を打ち出しており、3拠点をうまく使っている企業もあるが、シンガポールのメリットは、英連邦の法制が効いているため非常に管理運営がしやすい点があげられる。多少コスト高でも常にうまく動かせたい機能はシンガポール、それ以外は各国のタックス・エグゼンプションの状況に応じて判断していくのが良策ではないか。



Q. 外資系企業と日系企業におけるシンガポールの活用策の違いと、日系企業のとるべき対応は？

A. 米系企業は相当アグレッシブに細かくタックス・エグゼンプションを取る交渉をしているが、日系企業はある程度ところで諦めているように見える。リスクを認識して交渉にあたる必要はあるが、法制が使いやすくないので、うまく活用することが肝要だ。

Q. シンガポールは自国で投資をしているわりに国際収支において貿易収支が黒字である一方、配当や利息などのインカム収支がずっとマイナスなのはどうしてなのか？

A. 起債を促したり、そのクーポンが出ていたりということが考えられるが、政府がインカム収支を明らかにしないようにしているのではないかとされている。

◆ 参加者の声（アンケートより）

- 概要がつかめ、たいへん勉強になりました。
- 国家的戦略などの面で、シンガポールの優位性を再検討する必要があると思った。
- 内容が少し難しかったですが、シンガポールの経済政策についての理解を深めることができました。

会員様向け企画 イノベーション ワークショップ 2011総括セミナー

ワークショップの総まとめとして「総括セミナー」を開催しました。第一部では「グローバル企業戦略とリーダーのあり方」をテーマに講演いただき、第二部では「東アジアのビジネスチャンス」をテーマに各パネリストが東アジア市場への進出事例をあげながら、日本企業のアジア進出の鍵は何かをディスカッションしました。当日はワークショップ参加企業の方々をはじめ会員のみならずにも数多くお集まりいただき、盛大な交流の場となりました。

- ◆ **日 時** 2011年12月2日(金) 15:30～18:00
- ◆ **会 場** 明治記念館(東京都港区)
- ◆ **参加者** 約100名(ワークショップ参加者・推薦者、F I F会員など)
- ◆ **プログラム**

- **第一部 特別講演「グローバル企業戦略とリーダーのあり方」**
株式会社住生活グループ 取締役代表執行役社長 兼 CEO **藤森 義明 様**
- **第二部 パネルディスカッション「東アジアのビジネスチャンス」**
[コーディネーター]
キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹 **瀬口 清之 様**
[パネリスト]
株式会社リクルートエージェント
グローバル人材サービス事業部 事業部長 **貝瀬 雄一 様**
キュービーネット株式会社 代表取締役社長 CEO **北野 泰男 様**
前アジア開発銀行 地域経済統合室 エコノミスト **山寺 智 様**

◆ パネルディスカッション

Q. 日本企業の東アジア進出の鍵は？

貝瀬 優秀な人材を確保するためには、国ごとに人事制度を変える必要がある。現地の給与制度の実態だけでなく、文化的になぜそうなっているのか、人びとのモチベーションがどこにあるのかなどを分析し、その結果をもとに人事制度を設計していくことが重要だ。また、日本型のマネジメントに適應できる「ジャパン・ファクター」を持った現地の人間を採用することで、うまくいくケースも多い。

北野 シンガポールと香港で61店舗展開しているが、失敗を繰り返しながら学んだことは、現地では日本のやり方を押し付けるのではなく、人間関係を向上させて“自分たちの事業である”という当事者意識を刷り込ませることが非常に重要だ。また、ある程度権限を委譲し、時間的・金銭的な余裕を与えてこそ最大のパフォーマンスが引き出せる。

山寺 2008年のリーマンショック後、コンビニやファッションブランドなど様々な日本企業がアジアに進出し、各国で「ジャパン」が受け入れられている。世界経済の比重はASEAN プラス 3(中国、韓国、日本)に移っており、日本企業は売り上げを海外、特にアジアで伸ばすことになるだろう。今後日本の株価がアジア経済の動向を示す指標、アジアの勢いを表す指標になることを期待する。



藤森 義明 様



キッズ&ユース企画 社会の最前線

「社会の最前線」は、小中学生を対象にした一日職業体験プログラムです。FIFが初年度から実施している活動で、現場で働く人びとやトップとの対話をはじめ、現場体験をつうじて社会のしくみや働くことの楽しさを体感してもらうことを目的としています。2011年度は東日本大震災の影響で、佐川急便様に毎年ご協力いただいている「物流の最前線」をやむなく中止としましたが、夏にはJX日鉱日石エネルギー株式会社様とコマツ様のご協力のもと「エネルギーの最前線」と「はたらくクルマの最前線」を開催しました。

◆ コンセプト

働くカッコいい大人に会いにいこう!

社会の “しくみ”の実感

企業や団体で仕事の実体験をすることによって、その成り立ちや役割を知るとともに、いままで気づかなかった社会の“しくみ”を実感する。

社会人として あるべき姿の模索

トップとの対話やふだん接することの少ない社会人とのふれあいをおして、社会人としての理想像やリーダー像、将来の夢をより現実的に思い描く。

働くことの楽しさ やりがいを体感

学校や家庭とはひと味違う、オフィスや工場での様々な体験をもとに、社会で働くことの楽しさややりがいを体感する。

◆ プログラムの特色

「社会の最前線」は、参加者一人ひとりが“体験すること”を大切にしています。そのため参加人数は10～20名に限定し、受入企業・団体の皆様とともに、以下を特色としたオリジナルのプログラムを企画しています。

企業・団体のトップとの対話、ふれあい

ふだん接する機会が少ない企業・団体のトップの方々のお話をきいたり、直接質問したりすることで、仕事への情熱や経営に対する姿勢を学ぶ。

外部には非公開の場所やしくみの見学

関係者以外には公開することのない研究所やシステムなどを見学し、その企業・業界における最先端の技術やしくみにふれる。

現場での職業体験

店舗やオフィスで実際に行われている業務を大人と一緒に体験しながら、働いている人の想いやプロの仕事を感じ取る。

◆ エネルギーの最前線（JX日鉱日石エネルギー株式会社）

タンカー乗船や次世代エネルギーの実験をととして、社会や産業を支えるエネルギーについて学ぶプログラム。

- ◆ **コンセプト**
 - 石油を中心に暮らしや産業の発展を支えるエネルギーについて学ぶ
 - 地球環境との調和と次世代エネルギーの開発について学び体験する
- ◆ **日時** 2011年7月28日（木）10:00～16:30
- ◆ **会場** JX日鉱日石エネルギー株式会社 中央技術研究所、根岸製油所（神奈川県横浜市）
- ◆ **参加者** 中学1～3年生の計19名
- ◆ **内容**
 - 会社紹介
 - 若手研究者の方からのメッセージ
 - 研究所の見学・実験（燃料電池の実験、燃料電池車試乗、石油精製プロセス・実車試験の見学）
 - 若手研究者の方との昼食・懇談
 - 製油所見学
 - タンカー乗船（ブリッジ・コントロールルーム・機関室の見学、船長への質疑応答）
 - グループワーク
 - 松下副社長への質問会
- ◆ **後援** 川崎市教育委員会、品川区教育委員会、横浜市教育委員会



東日本大震災や原子力問題を受けて、参加者のエネルギーへの関心が非常に高く、みんな真剣に取り組んでいるのを肌で感じた。実際に体験したことで、頭の中で想像していたものが実感できたと思う。この体験がエネルギーや環境問題に自分が今後どのように関わっていくかを考える良いきっかけになったのではないだろうか。

JX日鉱日石エネルギー株式会社 副社長
松下 功夫 様



❖ はたらくクルマの最前線（コマツ様）

コマツ様とは初めての実施。工場見学やものづくり体験をとおして、豊かな社会づくりを支える建設機械産業について学ぶプログラム。

- ◆ **コンセプト**
 - 工場や施設の見学をとおして世界で活躍する建設機械の製造工程や技術を学ぶ
 - 技術者からものづくりの楽しさを教わる
- ◆ **日時** 2011年8月8日（月）8:40～15:40
- ◆ **会場** コマツ こまつの杜、栗津工場（石川県小松市）
- ◆ **参加者** 小学5、6年生の計14名
- ◆ **内容**
 - 会社紹介
 - 環境についての授業
 - わくわくコマツ館の見学、巨大ダンプトラック「930E」とミニ建機の試乗
 - 社員の方たちとの昼食
 - ものづくり体験
 - 一日のふりかえり
 - 駒村副社長のお話と質問会
- ◆ **後援** 小松市教育委員会、品川区教育委員会



いまの子どもたちがどんなことを考えているのか、何に興味があるのかがわかり、私自身もたいへん楽しく、勉強になった。成長して大学生や社会人になったとき、今回の実体験が物事を考えたり、人生を歩んでいく上での足しになってくれることを願っているし、子どもたちには“夢をあきらめない”生き方をしてほしい。

コマツ 副社長
駒村 義範 様

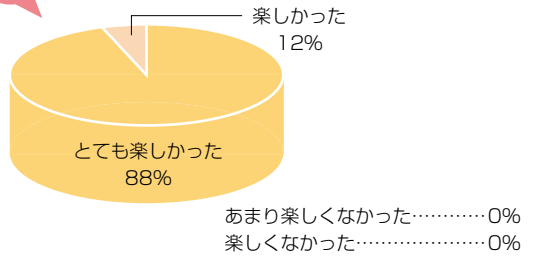


社会の最前線 アンケート結果

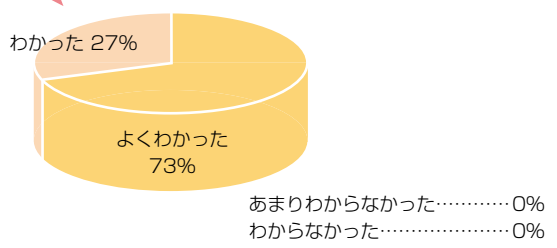
F I Fはプログラム終了後、参加者と保護者を対象にアンケートを実施しています。その結果をもとに、子どもたちにとってより有意義なプログラムになるよう内容の見直しや運営方法の改善を行っています。いただいたメッセージや感謝の言葉は、私たちスタッフの励みにもなっています。アンケート結果の一部を紹介します。(回答者数 33 人、回答率 100%)

参加者の感想

質問1 参加してみてどうでしたか？



質問3 訪問した企業の仕事内容や社会で果たしている役割がわかりましたか？



質問2 どんなことがためになりましたか？

👉 エネルギーの最前線

- 松下副社長から会社全体について詳しく聞けて、会社の考えがわかった。 <中1 男子>
- 製品を作りながら環境に配慮していたところ。 <中1 男子>
- 新しい知識や新しい考え方を多く学べたと思う。 <中2 男子>
- ほかではなかなか体験することができないと思うので、貴重な時間だった。 <中2 女子>
- 今回乗ったタンカーは鹿児島島の喜入から横浜の根岸に来るまでに2日かかるのに、運んだ原油(石油)は約4時間で使い切ってしまうことを知り、もっと大切に使うべきだと思いました。 <中3 女子>

👉 はたらくクルマの最前線

- ミニ建機をそうじゅうしたり3Dシアターを見て勉強になった。 <小5 男子>
- ものをつくるのが好きで、けっこういいペーパーウェイトができた。 <小5 男子>
- 駒村副社長のお話がとてもおもしろく、勉強になった。 <小5 女子>
- 930E。もう絶対体験できない。 <小6 男子>

質問4 初めて知ったこと、心に残った言葉はありますか？

👉 エネルギーの最前線

- 燃料電池が酸素と水素によって動いているという仕組みを初めて知った。 <中1 男子>
- 製油所の敷地の10%をそのままにして、緑をたくさん残していること。 <中1 女子>
- あんなに大きなタンカーに18人しか乗っていない事に驚いた。 <中2 女子>
- 「エネルギーをいかに使わずにより良いエネルギーを創るかを日々研究している」という言葉が印象的でした。これから石油に代わるエネルギーについて考えるべきだと思いました。 <中2 女子>

👉 はたらくクルマの最前線

- 930Eのタイヤが大きかったこと。 <小5 男子>
- リサイクルなどに積極的に取り組んでいること。 <小6 男子>
- コマツの建設機械が海外のほとんどにあること。 <小6 女子>
- 副社長さんが「(将来の夢がまだ決まっていなくても)まだまだ大丈夫」と言ってくれたこと。そうなんだと思った。 <小6 女子>

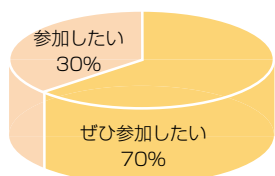


はたらくクルマの最前線



質問5

今後もこのような職業体験に参加したいですか？



あまり参加したくない……………0%
参加したくない……………0%

質問6

次回参加する後輩やお友だちにメッセージを。

☞ エネルギーの最前線

- どの体験も貴重で楽しいので、会社の人の話をよく聞いてメモすることが大事。質問を考えておくといいよ。
＜中1男子＞
- 今まで考えていた事に加えて、様々な知識が入ってくるのでびっくりすると思います。
＜中1男子＞
- 分からないこと、不思議だなと思ったことは心にしまうのではなく、しっかり質問すること!! ていねいに答えてくれる。
＜中2男子＞
- 地球のことを考えて動いていくことの大切さを知ってもらえたらいいと思う。
＜中2男子＞
- とてもためになるので楽しんで参加してください!
＜中3女子＞

☞ はたらくクルマの最前線

- 大型ダンプトラックに乗ったり工場をけんがくするのがのしいよ。
＜小5男子＞
- 人の話をよく聞いて学習してほしい。
＜小5女子＞
- とてもおもしろい! わからないことがいろいろわかる。
＜小6男子＞
- いろんな事にチャレンジしてください!
＜小6男子＞

保護者からの声

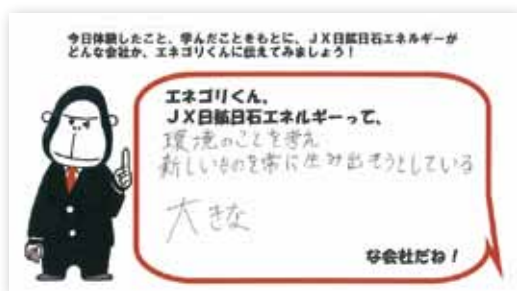
☞ エネルギーの最前線

- 研究所の方に「勉強はきちんとするように。成功への近道です」ととても良い教訓をいただいたとのこと。ありがとうございます。
- 水素(燃料電池)の取り出しについて具体的に教えていただいたようで、少し前に習った化学式を使って、とても納得していました。
- タンカーで働く人の少なさや水素で動く燃料電池車など驚きがいろいろあったようです。誇りと好きな分野で情熱をもって働く姿に感銘を受けたいです。
- まだまだ将来の目標も持てない状況ですが、「どんな職業があるか」「どうしたらその職業につけるか」などを話すよい機会になりました。
- これを機会に様々な職業について親子で話し合う時間をたくさん持とうと思います。

☞ はたらくクルマの最前線

- 帰りの車の中で、大変興奮して楽しかったことをたくさん話してくれました。建機のことはあまり知らなかった息子ですが、今回の参加で興味がわいてきたようです。
- このような体験ができることは大変貴重だと思います。是非また機会があれば参加させていただきたいです。ありがとうございます。
- 送り迎えの際もとてもていねいに対応していただきありがとうございました。息子もとても楽しい時間をすごせたようで、何日たってもいろんな事を思い出して話してくれます。これからも、いろんな職業のプログラムをよろしくお願いします。

エネルギーの最前線



「ITらぼ」は、ITにフォーカスしたオリジナルプログラムの総称で、FIFが初年度から実施している活動です。グループワークを通じてITのしくみを知り、その可能性を体感することで、イノベーションを生み出す大人への成長を支援することを目的としています。2011年度はたくさんの子どもたちにITのおもしろさを気軽に体験してもらおうと、キッズ向けホームページに学習コンテンツを公開しました。

❖ コンセプト

イノベーションを生み出す大人になろう！

“使う側”から “創る側”へ

自分の手でつくりあげる達成感を味わうことで、ITを“使う側”から“創る側”に立つ喜びや楽しさを体感する。

ITへの興味の 喚起

ITのしくみを知り、技術のおもしろさやデジタルの世界の可能性を感じることで、ITを身近に感じ、理数系の分野への興味が喚起される。

ITリテラシーの 向上

プログラミングや画像編集などの体験をとおして、想像力や表現力、ITリテラシーを高める。

❖ プログラム内容

子ども向け学習コンテンツの公開

NEW

多くの子どもたちにITのおもしろさを気軽に体験してもらうための学習コンテンツをオープン。



小学校への出張授業

小学5、6年生を対象にしたプログラム。1コマ90分を基本にプログラミング教室やデジタル教室を実施。



パソコン組み立て教室

パソコンを自分で組み立てることで、しくみや役割を理解し、モノをつくる楽しさを体感。



◆ 子ども向け学習コンテンツ「webで学ぼう！」

2010年度に杉並区立杉並第七小学校で実施した出張授業「デジタルってなんだろう？」の内容をサイト向けに編集しました。以下のURLにぜひアクセスしてください。


- ◆ **コンセプト**
- より多くの子どもたちにITのおもしろさや可能性を楽しみながら体感してもらい、ITへの興味を喚起する。
 - ITの基本であるデジタルの考え方やしくみを理解してもらう。

◆ **URL** <http://fif.jp/kids/manabo/>

第1弾

内容 かき氷のトッピングゲームをとおして
コンピュータの言語を知る

公開日 2011年5月10日



第2弾

内容 樹形図を使ってデジタルの基礎である
2進数の考え方を理解する

公開日 2011年12月1日



※第3弾は2012年春に公開予定

FIFkids エフアイエフキッズ 活動開始から5年。

2006年度のイベントに参加した子どもたちに追跡アンケート!

活動開始から5年経ったことを受け、初年度のイベントに参加してくれた52名を対象に、追跡調査を行いました。当時は小中学生だった子どもたちも、いまは中学生～大学生。回答の一部を紹介します。

病院食をみんなで食べて喘息の肺の音を聴き、医療現場を身近に感じた。

医師を目指そうとおもった。



医療現場の最前線
(聖マリアンナ医科大学)

06年8月2日実施



コンビニエンスストアの最前線
(株式会社ローソン)

06年8月24日実施

普段できないレジうちなどの体験ができた。学校の社会科見学／職業体験より楽しく心に残った。

いろんな立場から物事を見られるようになった。

CPUとハードディスクの取り付けが面白かった。この春、情報科学科へ進学します!

これをきっかけに『Think Quest Japan』というITイベントに参加。賞をもらいました。

国際関係の分野に進学したいと思っていたが、このプログラムでTSUTAYAに出会い、経営学部で希望を変えた。

「夢しか実現しない」という増田社長のお言葉が強く心に残っています。また皆さんと会いたいです。

エンターテインメント 発信現場の最前線

(カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社)

06年8月29日実施



パソコン組み立て教室

06年7月26日実施

新企画

キッズ&ユース企画 FIF Kids 絵画コンクール

設立5周年を記念して、活動をより広く知ってもらおうと「FIF Kids 絵画コンクール ～にじ色でつなく世界のかけ橋～」を開催しました。年齢・地域を問わず作品を募集し、国内外から733点もの応募がありました。3月の東日本大震災を受け、被災地への思いや未来への希望がこめられたものが多数あったほか、海外からはモルディブ共和国の小学生が作品を送ってくれました。受賞作品を紹介します。

- ◆ テーマ 「七色のにじ」 ～あなたが思い浮かべる“七色のにじ”を自由な発想で描いてください～
- ◆ 応募資格 誰でも応募可（年齢制限なし）
- ◆ 募集期間 2011年4月14日（木）～8月31日（水）
- ◆ 応募総数 733点（国内568点、海外165点）
- ◆ 後援 品川区教育委員会、財団法人国際IT財団



「メゾ・スタッカート」

徳島県徳島市 鳴門教育大学附属小学校 4年生
寺井 聖真くん

受賞者コメント

「オーケストラのコンサートをききに行ったときにえんそうって楽しそうだなと思いました。音楽って楽しいので、音楽をにじでつなげば人と人もつながると思いかきました。こんなに大きな賞をもらったのははじめてなので、とてもおどろきました。送ってもらった賞状を見てうれしさがこみあげてきました。」



愛知県碧南市 新川幼稚園 年長
犬塚 琉理ちゃん



「にじのなかにすむ、
とりかいじゅう」
東京都多摩市 南鶴牧小学校 1年生
隼 亮太くん



【小さな蛇口から大きな夢】
名古屋市立御田中学校
2年生
珍行 皓暉くん(愛知県)



【虹は天空からの贈り物】
東京学館船橋高等学校
1年生
岸 薫子さん(千葉県)



【ゆめへ】
大阪芸術大学
短期大学部 1年生
本田 亜利沙さん(徳島県)



【希望の虹】
国際アート & デザイン
専門学校 2年生
大室 実穂さん(福島県)



【幸せの虹のメロディー】
府中新町幼稚園
村上 和夏さん(東京都)



【虹のシャワー】
北海道教育大学附属
釧路中学校 2年生
岡本 紗葵さん(北海道)



【虹の世界】
原田 ひとみさん(長野県)



【虹色世界】
東海林 紘さん(福島県)

佳作 10 名(敬称略)

- Hitokoe Yokohama International School IROHA FUJITA (神奈川県)
- 東浦町立片葩小学校 2年生 長野宏希(愛知県)
- 軽井沢町立軽井沢東部小学校 3年生 小林姫公(長野県)
- 千代田区立昌平小学校 3年生 清水希真(東京都)
- Thaajuddeen School 3年生 Mariyam Hashma (モルディブ共和国)
- 飯田市立松尾小学校 6年生 奈川祐也(長野県)
- 飯田市立松尾小学校 6年生 宮内理名(長野県)
- 各務原市立蘇原中学校 2年生 永縄真由(岐阜県)
- 北海道教育大学附属釧路中学校 3年生 舟木七虹(北海道)
- 九州産業大学 3年生 白木綾(福岡県)

団体賞 3 団体

- 鹿児島市立郡山中学校(鹿児島県)
- 東京中華学校(東京都)
- 吉野児童育成クラブ(大分県)

団体特別賞 <モルディブ共和国の 3 校>

- Ghaazee School
- Iskandhar School
- Thaajuddeen School

団体特別賞を受賞した3校へは、駐日モルディブ共和国のアハメド・カリアル大使を通じて、FIF運営委員会委員長の安間裕より感謝状と記念品を贈呈しました。



参加者の写真によるフォトモザイク



FIF設立5周年を記念して、これまで参加してくれた子どもたちの写真を使ってロゴを作成しました。自分が写っている写真があるかも?! ぜひ一度ご覧ください。



URL <http://fif.jp/kids/5thAnniversaryLogo/>

新企画

復興支援活動 スマイル プロジェクト

3月11日の東日本大震災を受けて、子どもたちの笑顔で東北を元気にしようというコンセプトのもと、復興支援活動「スマイルプロジェクト」に取り組みました。スマイルプロジェクトでは、宮城県仙台市を拠点に活動しているNPO法人東北の造形作家を支援する会と協力して、石巻市の避難所で子どもたちを対象にしたアートワークショップを展開。その集大成として復興支援企画展「アートdeスマイル にじいろぱれっと」を仙台市にて開催しました。

❖ 活動方針

子どもたちに夢と元気と笑顔を!

- ◆ 被災地の方々に喜んでもらえる活動を行う
- ◆ FIFのネットワークとこれまでのノウハウを活かす
- ◆ 長期にわたって支援する

❖ コンセプト & 活動内容

スマイルプロジェクト第1弾 「アートdeスマイル」

子どもたちの笑顔で東北を元気に!

絵を描いたり仲間とふれあうことで子どもたちに少しでも楽しい時間を過ごしてもらい、子どもたちの笑顔で周りの大人たちも元気になってもらいたい。

NPO法人東北の造形作家を支援する会と協力して2つの活動を実施

石巻アートワークショップ

石巻市の避難所におけるアートワークショップ。
いろいろな画材を使って思い思いに作品を制作。



アートdeスマイル にじいろぱれっと

アートワークショップの集大成である復興支援企画展。
大勢の親子連れが来場し、アートの楽しさを体感。



◆ 石巻アートワークショップ

NPO 法人東北の造形作家を支援する会と協力し、石巻市の避難所等で子どもたちを対象としたアートワークショップを実施しました。FIF メンバーも7月中旬から現地に行き、子どもたちと一緒に身体を動かしながらアート作品をつくりました。この活動で制作した子どもたちの作品は、8月21日から3日間、せんだいメディアテークで開催した「アート de スマイル にじいろぱれっと」で展示しました。

- ◆ **目的** 子どもたちの心のケアを主眼に、身体を動かしながら絵を描いたり、粘土細工や貼り絵などのアート活動をとおして、ストレスを発散してもらう。
- ◆ **日時** 2011年6月4日～8月6日の土・日曜日(全10回)
- ◆ **会場** 宮城県石巻市内の避難所等9カ所
(石巻高校、門脇中、蛇田小、蛇田中、広瀬小、大塩市民センター、あけぼの集会所、万席浦中、渡波小)
- ◆ **内容** 絵画、粘土細工、貼り絵、折り紙、グループでの巨大絵画制作
- ◆ **協力** 東北生活文化大学
NPO 法人石巻こども避難所クラブ(現・にじいろクレヨン)



ひとりでも多くの子どもたちに笑顔になってもらおうと、震災後、FIFや地元の大学とともに石巻でアートワークショップを行ってきた。「にじいろぱれっと」はその集大成。絵を描いたり形をつくったりすることで心がふれあうのはアートの原点であり、被災地の子どもたちにとっては、溜まっていたストレスを発散できた良い場となった。

NPO法人東北の造形作家を支援する会 理事長
藤原 久美子 様



❖ アート de スマイル にじいろぱれっと

石巻市での活動の集大成として仙台市で開催した企画展。アートワークショップに参加してくれた子どもたちとその保護者5組 16名も招待し、楽しい時間を過ごしてもらいました。

- ◆ **日 時** 2011年8月21日(日)～23日(火)
 - 21日 11:30～19:00
 - 22日 10:00～19:00
 - 23日 10:00～17:30
- ◆ **会 場** せんだいメディアテーク「オープンスクエア」(宮城県仙台市)
- ◆ **出 席 者** 830名(初日332名、2日目216名、最終日282名)
- ◆ **内 容**
 - クラッチ&クラッチーナ、東北ゴールデンエンジェルスによるオープニングイベント
 - 石巻の子どもたちによる絵画作品、FIF Kids絵画コンクール応募作品の展示
 - 本のひろば～おはなし☆はらっぱ～
 - 協力企業からの記念品プレゼント
 - 日替わりワークショップ
 - 仙台出身のアーティスト「uwabami」のライブペイント ※最終ページをご覧ください。
- ◆ **共 催** NPO法人東北の造形作家を支援する会、F I F
- ◆ **協 力** 東北生活文化大学、仙台美術研究所、女子美術大学
カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社、佐川急便株式会社
JX日鉱日石エネルギー株式会社、学校法人聖マリアンナ医科大学
フューチャーアーキテクト株式会社、株式会社楽天野球団、株式会社ローソン



プレスクリッピング

2011年度は、職業体験プログラム「はたらくクルマの最前線」の当日の様子が北國新聞に掲載されました。また復興支援活動「アート de スマイル にじいろぱれっと」が河北新報で紹介されました。

小松市のコマツ製津工場では8日、小学生の職場体験が初めて行われ、同市内の小学生、6年生は人がものいへる体験や工場見学などを通じて仕事の楽しさに触れ、将来への夢を膨らませた。

次代を担う子どもたちの夢や可能性を拓くため、フェーチャーアーキテクト（東京）とコマツが、企業の社会貢献の一環として小学生を対象にした1日職業体験プログラムを企画し、首都圏以外で

小学生コマツで夢広げ

ものづくりや工場見学

初めての体験した。子どもたちは、コマツ製津工場で建設機械の組み立てや溶接などの現場を見て回った。縦3・5メートル、横10メートルの真鍮を切ってスパーウエイトづくり挑戦。熟練社員の指導を受けながら、サンドペーパーで表面を磨き、ねじの穴を開けて一点物を完成させた。児童らは目を輝かせながら作業を進め、

栗津で初の職場体験

ものづくりの楽しさを肌で感じ取った。コマツの駒村善範代表取締役副社長が講話し、「いろいろなことを見聞きし、体験することが大切。可能性は無限に広がっており、学んだことを活かしてほしい」と激励した。

参加者は、コマツ小松工場跡地に整備された「こまつの杜」も訪れ、超大型アンテナラックに驚きの声を上げ、「パワフルなロボット工場」でロボット操縦の体験を楽しんだ。

熟練社員の指導でものづくり体験を楽しむ子どもたち —小松市コマツ製津工場



北國新聞 2011年8月9日付

河北新報 2011年8月20日付

アートで子ども「げん樹」に

東日本大震災で被災した子どもたちに創作の楽しさを体験してもらおうと、仙台市のNPO法人「東北の造形作家を支援する会」(SOAT)は21~23日、「アート de スマイル にじいろぱれっと」を青葉区のせんだいメディアテークで開く。

会場には、段ボールで作った樹木の立体作品「げん樹(き)」を設置。来場者が葉っぱなどの形に切った紙にメッセージを書き、枝につけていく。また、縦130センチ、横400センチの作品をはじめ、石巻市の子どもたちが描いた絵も多数展示。絵本を楽しむスペースも設置し、絵本の無料配布を行う。

期間中は木の枝や木の実で動物を作る「自然クラフト教室」を開催。21日はごみ袋を使ったバルーン作りやライブペイントを実施。22、23日はカード立てや万年筆作り、アニメーションのワークショップを行う。

同会は震災後、宮城県内の避難所で子どもを対象にしたワークショップを行ってきた。イベントはその一環で、IT企業などでつくる産学連携組織「フェーチャーイノベーションフォーラム」(東京)と共催する。

藤原久美子理事長は「子どもたちの精神的なケアが大事になっている。楽しい時間を過ごしてもらえよう。アートの日、のような雰囲気になりたい」と話す。

あすから仙台でワークショップ

イベントポスター集

- 職業体験プログラム「エネルギーの最前線」
- 職業体験プログラム「はたらくクルマの最前線」
- FIF Kids 絵画コンクール
- 復興支援活動「アート de スマイル にじいろぱれっと」

◆ エネルギーの最前線



ENEOS

未来のエネルギーについて学ぼう！
国内最大級の製油所を見学しよう！
巨大タンカーに乗船しよう！
木村社長に質問しよう！

くらしを支えるエネルギーの未来を学ぼう！

夏休み一日職業体験プログラム
第5回 エネルギーの最前線

7月28日(木) 10:00～16:30

対象 中学生 (定員20名)

参加者
募集

定員を超えた場合は締切後に抽選を行います。ご了承ください。

- 会 場：JX日鉱日石エネルギー株式会社 中央技術研究所、根岸製油所
- 参加費：無料、昼食つき
- お申込み・お問合せ：フューチャー イノベーション フォーラム事務局
FIFのホームページまたは専用申込用紙にてお申込みください。
URL： <http://fif.jp/kids/>
TEL：03-5740-5817 (祝祭日を除く平日10時～17時)
- 申込締切：7月3日(日) FIF事務局 必着

注意事項：天候などにより、タンカーに乗船できない場合があります。
またタンカーは高い所に登ることになりますので、あらかじめご了承ください。







主 催：フューチャー イノベーション フォーラム
協 力：JX日鉱日石エネルギー株式会社、フューチャーアーキテクト株式会社
後 援：川崎市教育委員会、品川区教育委員会、横浜市教育委員会

(エネゴリくん)

❖ はたらくクルマの最前線

FIF kids

フューチャーイノベーションフォーラム主催
夏休み一日職業体験プログラム「はたらくクルマの最前線」

KOMATSU

「はたらくクルマ」をつくっているコマツで
一日職場体験しよう！

対象：小学5～6年生
(定員15名)

参加者
募集!

会場：わくわくコマツ館、930E、コマツ粟津工場
(いずれも小松市)
日時：2011年8月8日(月) 8時45分～15時40分
参加費：無料、昼食つき ※会場への往復の交通費はご負担ください。
応募締切：2011年7月14日(木) 必着



▼ お申込みはこちら ▼

<http://fif.jp/kids/>

お問い合わせ：フューチャーイノベーションフォーラム事務局
メール forum@future.co.jp、電話 03-5740-5811(平日10:00～17:00)



おもなプログラム

- ★世界最大級！超巨大ダンフに乗ろう！
- ★はたらくクルマが生まれる工場を見学！
- ★コマツのものづくりを体験しよう！
- ★コマツのトップにしつもんしよう！



主催：フューチャーイノベーションフォーラム / 協力：コマツ、NPO法人みどりのこまつスクスク会、フューチャーアーキテクト株式会社
後援：小松市教育委員会、品川区教育委員会

❖ FIF Kids 絵画コンクール

フューチャー イノベーション フォーラム(FIF)は活動開始から5年を経たことを記念して絵画コンクールを開催いたします。FIFが大切にしてきた「楽しくワクワクするような気持ち」にあふれた作品をお待ちしております。ふるってご応募ください。

FIF kids

絵画コンクール

にじ色でつなぐ世界のかけ橋

あなたが思い浮かべる「七色のにじ」はどんなものですか。
自由な発想で描いてください。



FIFでは、キッズ&ユース向けの活動をとあして子どもと社会、社会と企業をつなぐかけ橋になりたいという願いを込めて、キッズロゴをにじ色の7色としております。

応募締めきり日 2011年 8月31日(水) 必着

くわしくは、FIFキッズサイトへ！
<http://fif.jp/kids/>

おうぼようこう

応募要項 おうちのかたとお読みください。

対象：となたでもご応募いただけます。特に年齢による制限はありません。

応募締切：第1回：6月30日(木)、第2回：7月29日(金)、最終：8月31日(水)

応募方法：1 郵送
2 FIFkidsサイトより送信

各賞：FIFkids大賞(1名)ほか各賞をご用意しております。

応募者全員に参加賞を贈呈します。

また、学校単位でご応募いただいた場合は別途団体参加賞を贈呈します。

発表：2011年9月 FIFkidsサイトにて順次公開 受賞者には直接ご連絡いたします。

お問合せ：フューチャー イノベーション フォーラム事務局

〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2 アートヴェレッジ大崎セントラルタワー 15階(フューチャーアーキテクト株式会社内)
TEL:03-5740-5817(祝休日を除く 平日10時~17時) e-mail:fifkids@future.co.jp

主催：フューチャー イノベーション フォーラム / 協力：フューチャーアーキテクト株式会社 / 後援：品川区教育委員会、財団法人国際IT財団

FIF kids

フューチャー イノベーション フォーラム(FIF)は、子どもたちの「学ぶ」「楽しむ」「ワクワク感」を大切にしたイベントを企画・運営することで、未来を担う子どもたちの可能性を広げるお手伝いをしています。詳しくは当フォーラムホームページ(<http://fif.jp/kids/>)をご覧ください。

作品と
応募票を
送ってね!



❖ アート de スマイル にじいろぱれっと



にじいろぱれっと

8月21日 22日 23日

ところ/せんだいメディアテーク
1F オースンスクエア

入場無料!!

FIF kidsコーナー
協力企業からの様々な
景観グッズプレゼントも
ご用意!

21日 11:30~12:30
クラッチ&クラッチーナ
東北ゴールデンエンジェルス
も来るよ!

◎21日 11:30~19:00
◎22日 10:00~19:00
◎23日 10:00~17:30

22日 23日
ゆるぎものも連れて参加してね!

ふかふかバルーンづくり
13:30~16:00

いろんな色のビニール袋で
ふかふか厚かぶ
楽しいバルーンを作っちゃおう!

講師/栗田 恵子
(NPO石巻こども遊園地クラブ代表)

オリジナルカード立てづくり
15:00~17:00

きれいな石やガラスのかけら、紙などで
つくるオリジナルカード立てづくり。

講師/古藤 望

不思議な立方体万華鏡づくり
15:00~17:00

無限反射の立方体万華鏡づくり。
作ったあとはプロジェクターで
景色を投影して遊びます。

講師/ヤマザキミナリ
+OMODOC

びっくりサイズの巨大紙しばい
15:00~16:00頃

子どもたちが作った
大きな創作紙しばいはじまりはじまり!

協力/ピッコロ・ピットーレ

この絵はなあに? つながるワークショップ
15:00~17:00

関東の子どもたちと宮城の子どもたちの
描いた絵がつながって一つのアニメーション
を完成させるワークショップです!

講師/女子美術大学メディアアート学科
つながるワークショップ
"OMODOC" チームの学生達

みんなでつくる“けん樹”の木
みんなでつくるオブジェけん樹の木!
大人の参加も大歓迎!

ライスペイント
11:30~17:30 (随時)

タテ1.3m×ヨコ0.5mの大きな紙に
目的の会場の様子を描きます!
描くひと/はらた かなる(作家)

自然クラフト教室
21日 11:30~16:00
22日・23日 10:00~15:00

木の枝や木の皮で昆虫や
動物を作ってみよう!

講師/後藤 和生

作品展示 石巻アートワークショップ 映像上映

石巻の子どもたちによる
作品や活動コンクール
の作品展示!

石巻の子どもたちの
制作風景や作品を集めた
ビデオ作品を随時上映!

共催 NPO法人
東北の造形作家を支援する会
協賛 FIF
未来イノベーションフォーラム
協力 東北生活文化大学 仙台美術研究所 女子美術大学
カルチャーズ・コンビニエンス・クラブ株式会社
佐川急便株式会社 JX日鉱石エネルギー株式会社
株式会社楽天野球団 フューチャーアーキテクト株式会社

【お問い合わせ】NPO法人SOAT 022-369-8844 FIF事務局 03-5740-5817

「アートdeスマイル にじいろぱれっと」について

「アートdeスマイルにじいろぱれっと」はSOATと
FIFの共催で、石巻の遊園地等で展開したアート
ワークショップの活動を出展してもらい、子ども
たちがアートに接することで、少しでも楽しく笑顔
で過ごせるよう企画したアートイベントです。





仙台出身のアーティスト「uwabami」のライブペイント
「アート de スマイル にじいろぱれっと」にて制作

※ uwabami はムトウアキヒトさん、ほらだかおるさんによるユニット



Future Innovation Forum

▼お問い合わせ先

フューチャー イノベーション フォーラム事務局

- ADD 〒141-0032
東京都品川区大崎1-2-2
アートヴィレッジ大崎セントラルタワー15階
(フューチャーアーキテクト株式会社内)
- TEL 03-5740-5817
- E-mail forum@future.co.jp
- URL <http://fif.jp/> (会員向け)
<http://fif.jp/kids/> (キッズ&ユース向け)
<http://www.facebook.com/fif.2006> (facebook)